

佛心



支度、準備、用意、

尽十方無碍光の

大悲大願の海水に

煩惱の衆流帰しぬれば

智慧のうしほに一味なり

高僧和讃（四二） 注釈版：五八五頁

夏も終わりに向かい、新しい季節がやってきますが、皆さんは秋または冬の季節に向けての準備はできていますでしょうか？いろいろな事前準備しておくことは大切なことです。私自身もカナダに初めてきた年は、トロントの冬を舐めており何も準備していませんでした。すると厚手のコートは要るわ、革製のブーツは要るわ、丈夫な手袋や毛糸の帽子もいるわでテンワヤンワしたのを覚えています。

さて先程いただきました御讃題は、親鸞聖人がお書きになられた阿弥陀如来の慈悲と智慧をお示しになれた和讃の一つです。

この和讃で親鸞聖人は、「あらゆる世界に満ちている阿弥陀如来の本願力は、大海原のようなものである。そして我々煩惱を抱く衆生は、その大海原の流れに身を任せさえすれば、仏様の智慧という潮の一つの味となるのである。」と述べられておりま

二〇二一年十一月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

す。「尽十方無碍光の大悲大願の海水」とは、仏様のお慈悲の心より生まれ、その本願は海のように深く深いものであるということです。

私自身この御和讃を拝読する度に、なんともダイナミックでドラマチックなお味わいだなぁと思います。この仏様のお慈悲の心とは、単に他人に対して哀れみをかけ、自分が傷つかぬ程度に助け舟をだすというようなものではないと思います。他人の痛みが自分の痛みとなり、他人の苦しみを無くさなければ自分の痛みも無くならない。そこで人を救おうとする、これこそが仏様の慈悲の心であります。そして本願とは、その様な慈悲の心によって建てられたものです。

また仏様のお慈悲の心は、真実を明らかに見ることの出来る智慧の目によつてのみ生み出されるものでありますから、智慧と慈悲は切り離すことのできないのです。だからこそ、仏様の慈悲のおはたらきである本願力は智慧そのものであり、煩惱具足の私に他力の教えに帰依すれば、必ず智慧の眼を持つ身に転じ、仏様のおはたらきにより仏様と一つにならせていただけるのです。そして、そこで大事なのが全てを仏様にお任せすると言うことです。

少し話しがもどりますが、私たちは季節に向けての準備だけでなく、日常からいろいろな準備や支度をしています。会議に向けての資料の作成や、車で遠出する際には必要なガソリンの給油、夕食に備える食材の買い物や下準備、私の場合ですと、命日や葬儀の法要があるときは、移動の車中で発声練習をするときもあります。私の尊敬するメジャーリーグのイチロー選手もインタビューの中で「試合に備えての準備は決して怠らない。」と述べ、他の選手よりも何時間も前に球場に入りストレッチやトレーニングなどを念入りにして試合に向けての準備

備をしていたそうです。

また今では「終活」といって自分のお葬儀や死後に関する準備をなさっている人も多くいるようです。中には残された遺族に心配や迷惑をかけたくないという親心から準備されている方や、身寄りがなく自分一人で死後の面倒をみないといけな

い方もいらっしゃると思います。しかし、いくら自身の死後の準備を事前にしてもなかなか間に合わないのが、この私自身の「こころ」というものです。いくらお葬儀やお墓、財産の分配などの準備をしていても、いざ自分が亡くなるときに「私は死後に一体どうなるのか？」という不安や心配はなかなか払拭できません。また、自分が今まで生きていく上で頼りにしてきた財産や名誉というものは、死後を考えるときには何の役にもたちません。もしお金持ちは浄土で、貧乏人は地獄という単純な考え方ならば、私は間違ひなく地獄行きでしょう。また善人は浄土で、悪人は地獄ならば、それでも私はまた間違ひなく地獄行きです。

親鸞聖人がお示しになった「後生の一大事」とは一体どのようなことなのか？一体、私は死後に向けてどのように「こころ」の準備すれば良いのか？そのようなことを考えだしますとキリがありません。ましてや、いくら様々な準備をしていてもいざ病気や事故などで突然の今生のお別れが来た際、私たちは決して冷静にはなれないと思います。

しかし、そのような中でも仏様に手を合わせる日常を過ごしている人を見ると少しその考え方が変わってきます。例えば、トロント仏教会にもそれは熱心な御門徒さんがおられました。その方の臨終動行に向いた際、病室には家族が揃われており、皆でお経を称えさせていただきました。するとその方は意識がもうろうとする中においてもその手を合わせ、ゆっくり「南無阿弥陀仏！南無阿弥陀仏！」とその口を動かしていました。

それはまさに、何もできず何もできなかった私を、そのまま私として仏様と成らせていただける阿彌陀如来のおはたらきに「南無」つまり「帰依」している姿であり、言い換えますと全てを仏様にお任せしている姿でありました。

その様な姿を目にしますと悲しい中でも有り難く、寂しくも何ともあたたかい不思議な気持ちになったのを今でも思い出します。そしてその阿彌陀如来のお慈悲は、「南無阿彌陀仏」の6文字となつて残された私やその方の遺族にも届いておりました。

「南無阿彌陀仏」が、この口からこぼれるとき、それは目には見えなくとも確かに亡き方が残してくれた阿彌陀如来の本願であります。

阿彌陀如来は、法蔵菩薩であつたとき「生きとし生けるものが仏になることが出来ないのであれば、私も仏にならない。」「貴方は決して独りではない。いや、決して独りにさせはしない。」という誓願を建てられ、それを成就されました。

だからこそ、阿彌陀如来のおはたらきは「南無阿彌陀仏」というお念仏を通して亡き人だけでなく今のこの私たちにも届いているのです。そのお導きに出会い、如来のおはたらきを知ったとき、私のこの口からも「南無阿彌陀仏」のお名号が出ずにはいられません。 合掌

尽十方無碍光の

大悲大願の海水に

煩惱の衆流帰しぬれば

智慧のうしほに一味なり

駐在開教使 大内祐真

ごこうしゆいししようじゆ
五劫思惟之授受

じゅうせいみなしょうもんじつぽう
重誓名声聞十方

「五劫もの長い間 思惟してこの誓願を選び取り、名号をすべて世界に聞こえさせようと・・・」

『選び取られた法』

桜の咲く頃は、就職・転勤・進学などで、人生の転機を迎えられる方が多い時期でもあります。中には、右の道へ行くべきか左の道を歩むべきか「ここが思案のしどころだ」と決断を迫られている方もおられるかもしれません。考えに考えたあげく、もつとも良いと思われる一つを選択したつもりでも、やっぱり他のものは捨ててよいものかという反問が起こって、さらに考え込んでしまふということにもなりかねません。そのうえ、ともすれば、いくら考えても答えが出ないことにいらだつあまり、「下手の考え休むに似たり」と開き直って、考えることをやめてしまい、後で結果を見れば良い思案ではなかったということもありがちなことです。

法蔵菩薩は、考えることをやめることなく、「五劫もの長い間思惟し」続けられたと表現されています。

「劫」とは、インドの時間の単位の一つで、さまざまな教え方がありますが、要するに人間が想像もできない長い長い時間のことです。「五劫」とはその五倍ということになります。この時間の長さは、私たちのような凡夫を救うための法を完成させるには、どうすれば良いかを考え続けられた時間の長さであります。結果を見れば良い思案ではなかったということにならないように、法蔵菩薩がご自身のすべてを傾けて充分に考えられたということなのでしょう。

でも、どうして、法蔵菩薩の思惟がそれほどの長い時間に及んだのでしょうか？それは、それほどに、私たちを救うことがとてもなく困難であるということを表

しいるに違いありません。

そしてついに、私たち凡夫を救うための「誓願を選び取り」、その願いにしたがって救うための法を完成されたと説かれています。この「選び取られた」ということは、奥深い意味を持っています。というのも、思案に思案を重ねて、私たちを救う法を「選び取られた」ということは、そこで「選び捨てられた」ものは、私たちを救うのに必要とならないものであつたということになるからです。

その「選び取られた」法が、次に続く「南無阿彌陀仏」のお名号による救いの法であります。

そして、法蔵菩薩の深いお考えによって、その「名号の法」以外のすべてを「選び捨てられた」ということになるのです。

本願寺出版社

『ひらがな正信偈…森田真円』より



法要のお知らせ

11月と12月の「祥月法要」

祥月法要とは、祥月命日(故人が往生された月のご命日)をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする法要です。

トロント仏教会では、10月11月の祥月法要をin-personとzoomにて行います。

日時：2021年11月7日、12月5日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会、Zoom

※Zoomで参拝される方も、対面式で参拝される方も、その旨を<tbcc@tbcc.on.ca>までお知らせください。

永代経法要

浄土真宗では、永代供養とはいわず、永代読経＝永代経といいます。亡き人のために永代経懇志を上げていただくことで、将来にわたって(永代に)念仏のみ教えを受け継がれていきます。永代経法要では、読経を通して今まで寺院を支えて下さった往生された方にも感謝を申し上げ、お勤めをさせていただきます。

日時：2021年11月21日(日曜日) 午前11時から

場所：トロント仏教会、Zoom

お勤めの後に永代経にちなんだ法話がございます。
どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。



じょうどうえ 成道会

成道とは、お釈迦さまがさとりを開かれたことをいいます。お釈迦さまは、29歳で出家され、それから6年間、苦行をされ、瞑想に入り、49日目の早朝、さとりを開かれました。それが12月8日に当たります。お釈迦さまは、人は、なぜ死んでいくのか、死んでいくのになぜ生まれてくるのか、この人生にどんな意義があるのか、という人生の苦悩の解決を求めて出家されました。

私たちは、そのことを一生涯知らずにむなしく終わっていくかもしれません。そういった姿を悲しまれ、生死問題を既に解決して下さい、南無阿弥陀仏と喚んで下さる仏さまがおられると教えて下さったのが、お釈迦さまでした。お釈迦さまが成道されたおかげで、今私たちは、生死問題の答えであるお念仏に出遇えたのです。



トロント仏教会では、法要をin-personとzoomにて行います。

日時：2021年9月19日(日曜日) 午前11時から 場所：トロント仏教会、Zoom

お勤めの後に成道会にちなんだ法話がございます。どうぞご家族ご友人を誘ってご参拝下さい。

年末年始の行事予定

除夜の鐘

12月31日(金)午後11時30分～

2021年最後の読経の後、

お一人様一回ずつ鐘を撞いていただけます。



元旦会 (初詣)

1月1日(土)午前11時～

新年最初の読経の後、法話がございます。

ご家族ご友人とお誘い合わせてお参り下さい。

日本語法要のご案内

毎月第一と第三の日曜日は、午後一時より日本語での日曜法座を対面式と並行してZOOM配信でも行っております。本堂にて直接ご参拝を希望される方は、人数制限や席の配置等のこともあるので、トロント仏教会の事務所 tbc@tbc.on.ca までを直接参拝の旨をメールにてお願い致します。

新たにZOOMでの参拝を希望される方は、事務所までメールをお願い致します。法要のご案内と一緒にZOOMのリンクを送らせていただきます。

※ZOOMリンクは英語法座と同じものを使用しています。時間帯が異なるだけですので、日本語法座の参拝を希望される方も英語法座と同じリンク先をご利用してください。

キッズサンガからのお知らせ



トロント仏教会ではキッズサンガ(子ども会)をオンラインと対面式で行っております。Zoomでの参加を希望される方は、

kids.sanghatbc@gmail.com までご連絡ください。キッズサンガグループよりZoomリンクが送られてきます。

日時：11月7日(日)、21日(日) 午前10時30分から。

場所：トロント仏教会本堂 / Zoom

※法要後にワークショップなどお楽しみ会を行います。

※法要ならびにワークショップは英語で行います。